

平成 30 年度地域人材との連携による子どもの読書活動推進事業

「読書活動活性化フォーラム」事例集

北海道教育庁生涯学習課社会教育・読書推進グループ

北海道教育委員会では、子どもの読書活動の推進に向け、司書教諭、学校司書、教育委員会職員、公立図書館職員、地域のボランティアなどの子どもの読書活動の推進に関わる人材が一堂に会するフォーラムを実施しています。

平成 30 年度は、石狩管内、渡島管内、オホーツク管内、留萌管内、釧路管内の 5 管内で実施し、地域全体における読書環境の整備や子どもの読書活動の活性化に向けた様々なヒントを得ることができました。

また、北海道教育委員会では、家庭・地域・学校が連携を図った体制整備及び全体計画等に基づいた活動とその評価・改善を含めた取組を「チーム読書」というキーワードとして推進しております。その内容を次に示していますので、学校等における取組の参考としてください。

「チーム読書」とは、「連携」と「評価・改善」です



石狩会場

平成 30 年 8 月 31 日（金） 参加者 30 名

◆パネルディスカッションの概要◆

◆野村 邦重 氏（全国学校図書館協議会学校図書館スーパーバイザー）

- ・教育委員会は、校長を学校図書館長として指名するとともに、学校においては、校長のリーダーシップの下、組織的・計画的に学校図書館を活用した学習活動が推進されるよう努めることが大切である。
- ・学校図書館法の改正により、専ら学校図書館の職務に従事する学校司書の配置が努力義務となったことから、学校図書館運営の改善及び向上、児童生徒等による学校図書館利用の一層の促進を図るため、教育委員会は、その配置に努めていただきたい。

◆新谷 良文 氏（北広島市図書館長）

- ・3日間に渡る図書館主催の「図書まつり」では、講演会をはじめ、ワークショップやお話し会などの様々な活動について、地域との連携を図り、取組を推進している。



【パネルディスカッションの様子】

◆菅原 聡 氏（北広島市立大曲小学校長）

- ・保護者や地域住民による複数の読み聞かせ団体の協力を得て、大型絵本の読み聞かせ、紙芝居及びペープサートなどの読書活動が活発に行われたこともあり、読書の好きな児童が増加した。
- ・市立図書館の「地域まるごと読書支援モデル事業」として「まちなか司書」が配置されたことやPTA ボランティアとの連携から、学校図書館の環境が改善された。

◆石上 浩子 氏（おはなしの会ぽけっと代表）

- ・平成 20 年には、大曲東小学校の保護者とともに読み聞かせボランティアを立ち上げ、大曲地区の小学校 2 校で、低学年には絵本の読み聞かせ、高学年にはブックトークを実施している。
- ・中学生に読書への興味・関心をもたせるためには、ビブリオバトルに取り組むことも有効であると考えている。



「ぶっくん」からのポイント

- ・学校司書の配置については、教育委員会はもとより保護者や地域住民に対してもその必要性についての理解を図り、共に解決を図ることが大切です。
- ・ビブリオバトルは、子どもに読書への興味・関心をもたせるための活動の一つであることから、一層の普及・啓発を図る必要がある。

◆フォーラムの内容を踏まえた事後の実践◆

【事例】 江別市立対雁小学校における読書活動！

～ビブリオバトルの実践～

- ・図書委員会の活動として、ミニビブリオバトルを実施するとともに、その後、チャンプ本をはじめ紹介された本を展示した。

～保護者・地域ボランティアとの連携～

- ・保護者や地域のボランティアにより、人形劇やペープサート、大型絵本の読み聞かせなどの様々な活動を実施している。



【児童によるビブリオバトル】



「ぶっくん」からのポイント

- ・フォーラムのアンケートで多かった「ビブリオバトルに取り組んでみたい」という声を生かした取組ですね。



【大型絵本の読み聞かせ】

渡島会場

平成 30 年 10 月 10 日 (水) 参加者 50 名

◆パネルディスカッションの概要◆

◆大久保 雅人 氏 (全国学校図書館協議会学校図書館スーパーバイザー)

- ・学習指導要領にある読書活動に関わる取組を行うには、学級担任や教科担任だけで実施するのは難しく、他の教職員や地域人材等との連携を図ることが重要である。
- ・読書活動を通じて人と人が繋がりをもち地域社会を形成することを「読書コミュニティ」というキーワードで広がりを見せており、「チーム読書」の方向性も同様であるとする。

◆丹羽 秀人 氏 (函館市中央図書館長)

- ・学校に対して、「調べ学習コンクール」を実施したり、並行読書で使用する本を貸し出したり、夏休みの選定図書についてブックトークを行ったりするなどの支援を実施している。
- ・保護者を対象に「読み聞かせ会」を実施することで、家庭における読書活動の活性化を図っている。



【演習 ビブリアバトルの実践】

◆大橋 栄寿 氏 (松前町立松前中学校長)

- ・松前町では、全国学力・学習状況調査結果から、「家で一時間以上読書をする」と回答した児童生徒が全国平均を上回っており、各小・中学校での子どもの読書活動の推進について、学校司書をはじめ、地域住民や保護者などが互いに連携を図って取り組んでいる成果である。

◆府金 眞佐子 氏 (函館朗読奉仕会)

- ・公立図書館において、幼児や小学生を対象とした読み聞かせを実施しているほか、函館盲学校では、絵本を劇化したものを演じたり、卒業祝いとして絵本の内容を吹き込んだCDをプレゼントしたりしている。



「ぶっくん」からのポイント

- ・子どもに読書への興味・関心をもたせるには、学校はもとより、地域全体で読書活動を推進することが大切です。
- ・公立図書館が、読書活動に関わる様々な授業支援を行うことで、授業の質の向上が図られ、子どもの学力向上等に繋がります。

◆フォーラムの内容を踏まえた事後の実践◆

【事例】 森町～小学校でも「出張おはなし会」

- ・森町図書館は、昨年度から職員が幼稚園に出向いて読み聞かせをする「出張おはなし会」を行っており、今年度から事業を広げたいとの考えから、校長会の了解を得て、小学校での実施が実現した。
- ・児童にしおりをプレゼントし、保護者にはオススメ本等を載せたお便りを配付、図書館利用と読み聞かせの推奨をアピールした。
- ・他の小学校からも依頼があり、今後も活動を広げていきたいと考えている。



【出張おはなし会の様子】



「ぶっくん」からのポイント

- ・図書館と学校が連携して取り組む良い事例ですね。幼稚園から小学校へ継続して取り組むことが子どもたちの読書習慣の定着に繋がります。